

真理を求め努力を惜しまぬ生徒 互いを認め合う思いやりのある生徒 心身ともに健康で責任を果たす生徒



浜頓別町立浜頓別中学校
学校だより 第3号
R7年 6月 9日発行
文責・編集・発行：教頭

教室から飛び出して

5月31日開催の浜頓別中学校第79回体育祭に、多くの方にお越しいただき感謝申し上げます。暖かくなるにつれ、生徒達が教室を飛び出して、地域をフィールドとした学習活動を展開していきます。引き続き、見守りやご協力のほど、よろしくお願いいたします。



ケガの予防に
ラジオ体操を
しっかりと！



みんなで上を向いて
風にまけずに玉入れ！



ジャンプの前の
緊張感！



声をかけ、チームでリズムを合わせてジャンプ！



係活動も
がんばりました！

やり切った後の
表彰式！



【花の季節ですね】

6月3日、PTA事業部の方を中心に、花壇の草取りをしていただきました。1年生も何人が帰り際にお手伝いをしていました。

緑が映える季節となってきましたが、色とりどりの花で、色彩豊かなテラスになることでしょう。



人間関係はつらいや

いつの時代も、人間関係についての悩みは尽きないようです。先日、30年前のロックな音楽の歌詞を改めて読んでみると、「現代もそんなに変わらないなあ」と思ってしまいました。

特に、今の中学生は、小学校2～4年生の頃がいわゆる「コロナ禍」と呼ばれる時代でした。心理学者の「ピアジェ」氏によると、7～11歳の時期は「具体的操作期」とされ、論理的な思考力が発達する時期だそうです。それともう一つ「脱自己中心性」を獲得し始める時期でもあり、自分と他の人とでは見え方や考え方が違うことを理解し始め、他の人の考えなどを聞いたり考えたりできるようになるそうです。

そんな時期を「コロナ禍」で過ごし、他者と十分な関わりをもつことが難しかったことは、人間関係づくりにさらなる困難さをもたらしているかもしれません。



「ロックの日」に際し、子どもたちの様子について、思いを馳せてみたいと思いました。

人権の花で 心を豊かに



6月4日

生徒会代表2名が
受け取りました。

『つむげ、この想い。』

校長 明石 貴宣

先日は、本当に寒い中、本校の体育祭に多数の保護者と地域の皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。「つむげ、この想い。」のテーマの下、寒さや浜頓別特有の東風にも負けない、熱い体育祭をご覧いただけたのではないかと思います。

縦割りの赤、白、青の3つの組は、3年生を中心に話し合いと練習を重ね、どの組も素晴らしいチームワークを発揮していました。競い合う中で結果はつきものですが、結果以上の成果を得られたのではないのでしょうか。

特に3年生は、チームリーダーとしてだけでなく、行事を通じた学校全体の成長にも力を発揮していました。今年の浜中は、自分で考え、判断し、表現・行動する「主体性」を高めようとしています。体育祭の練習や当日の取組の中で、何ができるかを考え、どうすべきかを判断し、それを言葉にして表現し、実際の行動に移す姿が何度も見られました。もちろん、それに応えてともに盛り上げた2年生、初々しくも一生懸命さが光った1年生、それぞれの活躍も素晴らしいものでした。

生徒会長の言葉にもあったように、「行事の成果を日常に生かす」ことが大事です。特に、今回の成果はぜひとも学習に生かしてほしいと思います。意欲的に取り組むことはもちろんのこと、自分で考え、判断し、表現する力を、学習でも存分に発揮してくれることを願っています。